



みんなで守ろう岐阜市の自然

岐阜市自然ふれあい地域ビジョン策定ワークショップ 第4号 平成17年10月発行

はじめに

岐阜市には、金華山、長良川をはじめとした誇るべき自然環境が多くあります。その一方、生活環境の変化、生活基盤を支える様々な整備により、貴重な自然環境が減少しているのもまた事実です。このような状況の中、現在ある岐阜市の貴重な自然環境を、次世代に残し伝えることが、私たちの役割です。

そのための第一歩として「**岐阜市自然ふれあい地域ビジョン**」策定に取り組みます！！



里山整備体験会の活動内容（10月8日開催）

- ・広葉樹二次林の整備体験
- ・スギ・ヒノキの人工林の間伐、枝打ち体験
- ・モウソウチクを使った竹細工

里山整備体験会

最も身近な自然環境保全活動の一つに、里山整備体験があります。この活動は、現在では全国的にも市民参加型の環境活動として知られるようになり、数多くの団体が活動を行っています。そこで「自然ふれあい地域」の候補地である山県北野にある岐阜ファミリーパーク内の山林において、里山整備体験を行いました。



広葉樹二次林の整備体験

元々、コナラやクリが生えている広葉樹林は、どのような山だったのでしょうか？里山と呼ばれる岐阜市の山々のほとんどが、昔は薪や炭を作るために活用されていた「薪炭林」として活用されていたものです。それが、化石燃料を使うエネルギー革命が起こった後からは、徐々にその役目がなくなり、里山と地域住民の関わりがなくなっていきました。そのような生活スタイルの変化によって、里山が放置されて現在のような、森が藪になっています。そのような状況を改善するのが里山整備活動です。



ヒサカキをはじめとした常緑広葉樹、ヤマウルシなどのかぶれる樹をみんなでのこぎりで伐採していきました。伐採した後は、適度な大きさに切り直して、幹や枝を集めて後かたづけも行いました。昔はこのような枝も農作業などに活用をしていました。葉も堆肥などにして、自然の恵みとして使っていました。本当に無駄のない活用をしていたのですね。

スギ・ヒノキ人工林の間伐、枝打ち体験

広葉樹二次林とは全く違う木材生産を目的とした森が、スギやヒノキの人工林です。大きなスギやヒノキの材木は家を建てる時に使われる建築材をはじめ、様々な活用がされるのですが、近年林業の後継者不足などにより、間伐や枝打ちといった人工林を育てるための作業が、全国の山々で遅れています。そのため、木材としての価値が高くない樹が目立つようになりました。

そこで、よい木材になるために必要な間伐、枝打ち作業を行いました。間伐するスギ・ヒノキは、周りのものより樹高が低かったり、幹が真っ直ぐになっていなかったりなどを優先的に伐採していきました。枝打ち作業は、地面から3m位のところまでにある枝をのこぎりで切っていく、木材に節が残らないように処理をしていきました。どちらの作業も本当に大変な作業でした。



ヒノキを間伐しています。

モウソウチクを使った竹細工

当日は、作業中雨も降っていたので、作業を早めに切り上げて、ファミリーパーク内で切ってきたモウソウチクを使い竹細工を行いました。器用にナイフや紙ヤスリを使い竹とんぼや竹カップを作りました。特に、家庭によくある電子レンジを活用した竹とんぼづくりでは、上手く羽根を作りながらよく飛ぶ竹とんぼになるように頑張っていました。



竹とんぼづくりをみんなで行いました。

おわりに

今回の里山整備体験で、みんなで協働して山の整備をすることの大切さ、楽しさを理解することができました。また、今回の体験については10月9、10日に開催された「全国雑木林会議 2005 ぎふ」において、紹介するとともに、自然環境を保全する活動と人づくりについてどのように進めていく必要があるのか、会議の参加者と共に幅広い意見交換を行いました。

この会議の内容については次号でご紹介します。

自然ふれあい地域ビジョンに関する問い合わせ

岐阜市 人・自然共生部 みどり自然室 担当：吉村

TEL：058-265-4141 FAX：058-267-1374

E-mail：midori@city.gifu.gifu.jp

みどり自然室 HP アドレス：http://www.city.gifu.gifu.jp/splash/midori/index.html